



ADRC Highlights

Vol.70

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

May 16, 2003

➤ カンボジアで地方政府職員向け防災研修を実施

ADRC はカンボジア国家防災会議事務局 (NCDM) と共同で、3月下旬から5月上旬にかけて、カンボジアの5つの州(PreyVeng、Kandal、KampongSpeu、KampongCham、Kratie)で地方政府職員を対象とした防災研修を実施しました。

カンボジアは毎年のように、洪水と干ばつによる被害を被っており、これらの災害発生時の地方政府での情報収集と中央への伝達の迅速化が大きな課題となってきました。このため、地方防災会議に参加する地方行政組織の連携強化と責任分担の明確化、これら地方行政組織職員による災害情報の迅速な収集と中央への伝達、被害情報及び被災者ニ

ーズについての標準報告様式に基づくアセスメント、緊急対応手順の明確化などに焦点を当てて各州それぞれ3日間



の研修を実施しました。4月22日から24日にかけてKampongChamで開かれた研修には、ADRCの西川所長が出席し、日本の台風災害への対応の歴史、総合的な防災(TDRM)政策展開の必要性について講義を行いました。州政府大講堂の会場にはカンボジア中央防災会議副議長のNhimVanda氏、KampongCham州知事他州政府幹部も出席し、それぞれ防災がカンボジアの将来にとっていかに重要であるか力説され、出席者一同熱心にメモをとっていました。

➤ 第5回日米都市防災会議にADRCが参加

第5回日米都市防災会議がハワイ州マウイ島で3月23日~27日に実施され、ADRCもこれに参加しました。

会議は、全体セッションと10の分科会から成

り、約100人の参加者を数えました。ADRCからは矢代主任研究員が論文発表、分科会で討論など積極的に参加しました。

全体セッションでは、「日米都市防災会議の今までの歩み」、「神戸地震とノースリッジ地震から学んだこと」、「ウェブによる世界の住宅：世界の地震地域における住宅建設工法」、「日本の防災行政に関して」、「東海地震、東南海地震の防災体制の新たな対応」等の講演が行われました。

一方の分科会では、「リアルタイム被害想定手法に関して」、「リスクコミュニケーションに関して」、「震災復興に関して」、「震災復旧に関して」等の10のセッションのテーマ別に議論が行われました。矢代主任研究員は、グループ8の「国土計画、構造物建設、防災教育等を総合的に考える地震防災対策に関して」のセッションにおいて、「企業の地震リスクマネジメントにおける地域分散効果に関する研究」の表題で発表を行いました。このセッションでは、他の発表及び討論が行われた後、地震のハザードアセスメント、損傷度評価、資産評価(エキスパーチャー)、損害評価の流れについて取りまとめを行いました。

最終日には、各セッション代表の発表が行われ、会議全体が取りまとめられました。また次回の会議として2005年に神戸で実施をするように神戸市から招待の講演が行われ、満場一致で賛成となりました。(主任研究員 矢代 晴実)

➤ 国連防災賞のお知らせ

国連の国際防災戦略(ISDR)事務局では、2003年国連防災賞の候補者を募集しています。国連防災賞とは、防災の分野で画期的な活動を展開し、大きな成果を成し遂げた専門家や組織を対象にした賞で、日本財団の支援により1986年から続けられています。受賞者には50,000ドルが授与されます。締め切りは8月15日。英語、フランス語、スペイン語およびロシア語の応募要項と応募用紙はISDRのホームページでダウンロードできます。お問合せは、ISDR事務局のMs. Christel Rose

(電話：+41-22-917-2786、ファックス：+41-22-917-0563、E-mail：rosec@un.org)まで。

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行：Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 ひと未来館5F

E-mail：editor@adrc.or.jp TEL：078(230)5540 FAX：078(230)5546

誌代・送料： 無料 / 毎月2回発行(予定)